

弥生時代中期後葉以降の 水田景観の変化と河川活動

大阪府河内地域における展望

The Relationship between the Paddy Field Landscapes and River Activities
after the Latter Part of the Middle Yayoi Period :
A Case Study in the Kawachi Region, Osaka Prefecture

井上智博

INOUE Tomohiro

はじめに

- ① 景観生態学的観点にもとづく弥生時代の水田景観のとらえ方
- ② 詳細スケールにおける弥生時代中期後葉～後期の水田景観の変化
- ③ 広域スケールにおける弥生時代中期後葉以降の水田景観の変化
- ④ 水田景観の変遷と降水量変動・河川活動との関係
- ⑤ 今後の展望

【論文要旨】

弥生時代中期後葉から後期にかけては、降水量変動をはじめとして自然環境変化が激しかったことが明らかにされている。また、水田の様相が大きく変化することも知られており、これまでも自然環境変化との関連が議論されてきた。大阪府河内地域において、この時期の水田景観を個々の水田域と、河川流域という二つの空間スケールで検討したところ、中期後葉後半～後期前葉、後期中葉に水田域構成が変化し、複雑な灌漑システムにもとづく階層的な水田域構成が形成されていったことが判明した。また、地形変化や流路の移動を契機とする新たな水田開発に伴って、新たな水田域構成が導入される事例も確認された。弥生時代における大和川流域の流路の動態には、年輪酸素同位体比変動から復元される降水量変動と対応する部分があり、河川活動は降水量変動に一定の影響を受けたものと考えられる。中期後葉後半以降の水田景観は、こうした河川活動の変化に伴う地形変化と、それへの応答を含む人間活動という二つの要素の相互作用によって変化していったと考えられる。

【キーワード】 水田景観、水田域構成、降水量変動、地形変化